

学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名称：学術フォーラム コロナ禍を共に生きる[新型コロナウイルス感染症の最前線～what is known and unknown #2]「新型コロナウイルス感染症の臨床的課題、対策と今後の方向性：臨床の現場を知り、何をすべきか一緒に考えましょう。」

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：

- ・主催：日本学術会議、日本医学会連合
- ・後援：日本生命科学アカデミー

3 開催日時：令和3年9月18日（土） 13時30分～16時45分

4 開催場所：オンライン

5 開催趣旨：

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、様々な新たな臨床的な課題を引き起こしており、その中にはこれまで培ってきた医療・医学の経験や知識から何が起きており、どの様に対応すれば良いかを考えることが出来る現象もある。一方従来の医学的な知識では、予想が困難な経過、影響や後遺症などが引き起こされ、医療現場も困難が生じ、国民の方々の不安も高まっている。この様な新たな課題に直面して、その対策を講じるための医学研究が進められている。以上を踏まえ、本学術フォーラムでは、専門家をお願いして、新型コロナウイルス感染症の臨床的な課題とその対策、今後の方向性を含めて分かりやすくお話いただき、国民と広く共有したいと考え、日本医学会連合とともに企画した。

6 参加人数：

講演者等：10名

その他の参加者：最大同時視聴者数 491（総視聴回数：1,475回）

7 特記事項：

COVID-19 拡大の第5波の真っ只中タイムリーに、様々な臨床現場で診療に携わっている演者から、急性期症状のみならず Long COVID と呼ばれる残遺症状、抗体カクテルなど治療法の進展、加えて臨床的な観点からワクチン接種の重要性について、国民に伝えることが出来た。特に今回、事前質問が多く寄せられ、また本学術フォーラム中の質問事項も含めて、各演者が質問内容に対応することで、国民との双方向性の対話も実現することが出来た。運営面では、事務局の対応も素晴らしかった。この様な学術フォーラムの開催により、本年4月22日に発出された、「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」に明記された、「国民との対話と科学の成果を還元する情報発信力強化・広報部署強化」は着実に実現されつつあると感じた。また、日本産婦人科学会から要望のあった COVID-19 と妊娠・出産についても情報発信を行っており、学協会との連携に寄与した。

なお本学術フォーラムで取り上げられた話題のうち、精神医療現場に関する事柄は、『学術の動向』11月号：「コロナ禍における人・社会・環境～危機への対応と持続可能な社会の実現～」でも触れる。